

サントリーの人材戦略①「地方創生への貢献」を通じた自律型人材づくり

■サントリー社内での注目を集める地 方自治体への社員の出向

「200名を超える社員が申し込み、一番人気のプログラムになりました」と熱く語るのが、サントリーホールディングス株式会社(以下サントリー)のピープル&カルチャー本部でシニア社員の活躍戦略を担う齋藤誠二さんです。毎年秋恒例のサントリーでの「社内部署の紹介フォーラムBUSHOFFO」で、自ら社内企画担当とした「地方自治体への出向者」による座談会への社内の関心の高さに、齋藤さんは大きな可能性を感じています。座談会では、先駆者として地方自治体に出向中の社員の「生の苦労話や大きなやりがい」に、参加者が真剣な表情で聞きいついたそうです。

■シニア社員のキャリア人生の充実を 考え抜く齋藤さんが出会ったものは

地方自治体への出向の狙いを齋藤さんは、「サントリーには、社員のビジネス人生の充実が会社の発展に繋がるとの不動の価値観があります。社員には自らの道を自ら考え抜くキャリア自律を期待しています。会社は複数の選択肢を社員に示し、社員のキャリア人生の充実をバックアップする。年齢は関係ありません。当社は既に最大70歳までの継続雇用も行って

います。そこで、シニア社員にも豊かな経験をいかせる多様な選択肢を提供したいと考え続けていた矢先に出会ったのが、内閣府の地方創生人材支援制度だったのです」と続けて話してくれました。

■自治体からの高い期待感に応える 10名の出向社員

サントリーでは2021年4月の3名の社員を皮切りに、今では10名の社員が自ら手を挙げて、地方自治体へ出向し、全く異なる環境下で、誰もやらなかった取り組みに日々挑戦を続けています。まさに「企業の枠を越えたオープンなキャリアを外で築く絶好の舞台」となっているようです。一方で、受け入れ側の自治体からは、積年の課題であった名産品の拡売や健康増進、環境保全などの幅広い分野



サントリーホールディングス株式会社
ピープル&カルチャー本部 専任部長 齋藤誠二さん

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所長

1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。著書として『定年NEXT』『人生の頂点は定年後』がある。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後からの自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」に寄せてください。

で、新しい取り組みの原動力となっているとの高い評価を受け、自治体から齋藤さんへの問い合わせも増えているそうです。まさに、サントリーの価値観である「やってみなはれ」「利益三分主義※」が、シニア社員のキャリア自律を通して体现されている事例と言えるでしょう。次回は、実際に岐阜県飛騨市にサントリーから出向中の上田俊二さんへの現地取材インタビューを紹介します。

※利益三分主義…事業によって得た利益は、「事業への再投資」「お得意先にお取引先のサービスにとりまらず」「社会への貢献」にも役立てたいというサントリーの考え

当ページのバックナンバーは、上記サイトをご覧ください。